

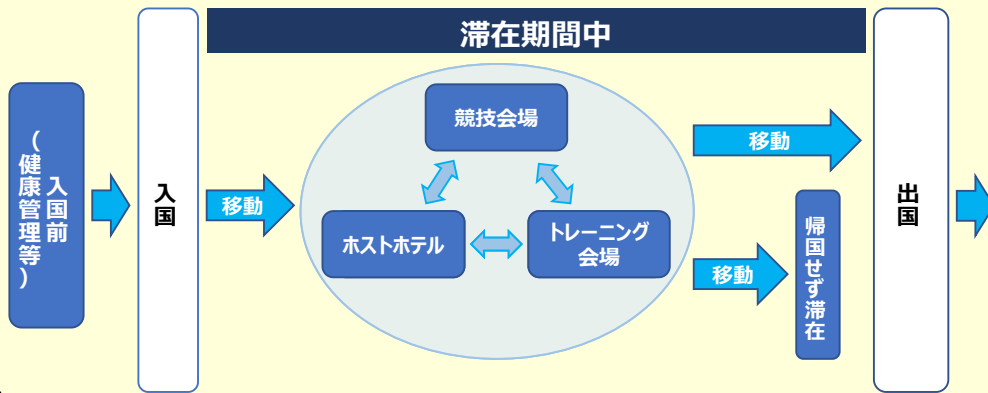
■アスリート用東京オリパラ準備トラック(通称アスリートトラック)とは

国際大会等に関し、組織委員会または各競技団体が内閣官房オリパラ事務局またはスポーツ庁に対して事前に誓約書及び本邦活動計画書を提出するなど、防疫措置を各団体の責任で実施すること。

この条件の下、選手等がオリパラに関連し国内で開催される入国後14日間の自宅待機期間中の活動(大会参加等)を可能とする措置(アスリート用東京オリパラ準備トラック(通称アスリートトラック))のこと。

アスリートトラックの基本的な考え方

- ▶ 入国者(選手・関係者)の管理は、隔離を前提とする。
- ▶ 一般の方と接触する場面无くす。
- ▶ 感染症専門家の意見を踏まえ、防疫措置計画(ガイドライン)を作成する。
- ▶ 選手間でのクラスターを防ぐため、各場面(輸送・宿泊・食事等)を想定した防疫措置計画(ガイドライン)を作成する。



基本的な感染症対策

- ▶ 基本的な感染症対策は個人の責任で行う。
- ▶ マスク、個人用手指消毒液は各自で用意し、マスクは常に着用する。
- ▶ 人混みを避け、ソーシャルディスタンス(2m)を保つ。
- ▶ 発熱時や体調不良を感じた場合は大会参加を辞退する。
- ▶ 握手、ハイタッチ、ハグなど、人と人との接触を避ける。
- ▶ 個人同士での各器具や装具、備品の共有は行わない。



必ずマスクを着用する



マスクを外す時(特に食事の時などは周囲の方と距離を取る



咳エチケット
咳エチケットの励行



近密な距離での会話を避け、大声は出さないようにする。



常に換気をする



密室回避 密接回避
多くの人が集う場には極力行かない、行く場合もソーシャルディスタンスを確保できるように注意する



多人数での会食は避ける



こまめに手洗い、手指消毒をする



検温の実施

■スケジュール及び内容

入国前

- ▶ 日本国入国前14日間の健康管理を実施。運営側で入国者の健康モニタリングを実施。
- ▶ スポーツ庁管理の下、各国大使館・領事館へVISA取得手続きを実施。
- ▶ 入国者は入国前72時間以内に新型コロナウイルス検査を受検し、陰性証明書を取得する。
- ▶ 入国者は入国する際に、必要書類(誓約書・大会概要・検査証明書)を事前に用意し民間医療保険にも加入(義務)する。

入国時

- ▶ 入国者の受入空港は成田空港のみとする。
- ▶ 成田空港到着後、空港検疫所にて誓約書・陰性証明書等を提出し、日本人、外国人に関わらず、入国者は全員PCR検査を受診する。
※変異ウイルスの感染が拡大している英国・南アフリカ・アイルランド・イスラエル・ブラジル・アマゾナス州へのアスリートトラックの適用については未定。
- ▶ 入国者はスマートフォンに接触確認アプリ COCOA・位置情報把握アプリ Googleマップ・健康管理アプリ ONE TAP(仮)を導入し、入国後14日間利用する。
- ▶ 受入責任者は、入国者全員の健康状態をLINEアプリで確認し、入国後14日間は、日々保健所に報告する。

滞在期間中

- ▶ 滞在期間中の移動方法は、大会が指定する専用車両のみ可能とする(自己手配・自走での移動不可)。
- ▶ ホストホテル内では、一般利用者との接触を避けた動線とする。
- ▶ 部屋からの外出を禁止する為、ホテル内に簡易コンビニ(仮)の設置や食事(3食分)の配布を行い、ゴミ回収やシーツ等の交換についても、大会が指定した方法で行う。
※トレーニング時および競技時以外は、原則として外出を禁止する(外食・観光・ショッピング等も不可)。
- ▶ 入国者は、アプリをダウンロードしたスマートフォンを常に携帯する。
- ▶ 入国者は毎日健康管理アプリを使用し体調状況を大会側へ報告する。
- ▶ 大会前にPCR検査を実施する。
- ▶ スイム・バイク・ランの各トレーニングは大会が指定した場所でのみ行う。
- ▶ 試走(外でのバイクトレーニング等を含む)は実施せず、大会側がコース全体を撮影し、映像として提供する。
- ▶ 試泳は大会で定めた時間内で実施し、ウォーミングアップは決められた時間・場所でのみ実施可能とする。
- ▶ 各国のフライト時間に合わせて運営スタッフの管理の下、ホテルのチェックアウトから空港までを移動させる。

出国時

- ▶ 出国時にPCR検査が必要な国に対しては、検査機関を提供する。
- ▶ 空港到着後、運営スタッフの管理の下、出発ロビーまで移動させる。
- ▶ 各国のフライト時間に合わせて出国。